

栄養価高く料理に多用

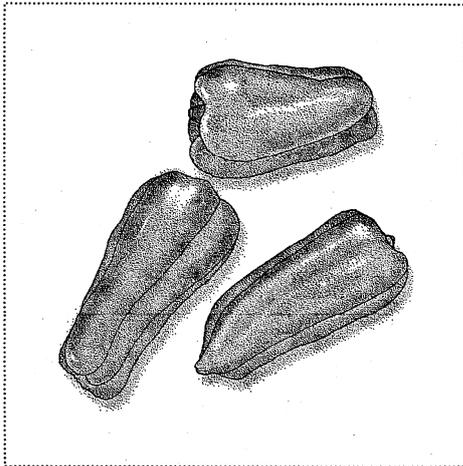
—— 鮫島 國親



戦後急速に消費が伸びた野菜で、呼び名はフランス語に由来しています。店頭
に並んでいる緑色のピーマンは果実が未熟なうちに収穫されたものです。完熟さ
せて赤くなった果実をカラーピーマンとして収穫する栽培もあります。栄養価が
高く、ビタミンCやカロテンを多く含んでおり、洋食や中華料理によく利用されます。

一番花は主枝の十節付近に著生し、その基部の両側に2本の分枝が伸びます。この分枝の第一
節におのおの2番花が分化し、その基部からさらに2本の分枝が伸び、以後これを繰り返します。
今回は夏から秋にかけて家庭菜園で手軽に作れる露地栽培を紹介します。

生育適温は20-30度、発芽適温は30-33度です。肥沃な土壌を好み、水分を多く必要
としますが、過湿には弱いです。連作すると土壤病害が発生しやすくなるので、**輪作(畑4-5年)**
が望ましいです。



苗を購入する場合がありますが、好みの品種を選び、種
を購入もて育苗から始めるのも楽しいです。育苗期間は7
0日くらいです。**定植期は4月下旬-5月**で、最初の花が
咲くころが適期です。本ぼには1平方メートル当たり苦土石灰
100グラム、堆肥3キログラム、化学肥料100グラム(三要素15%
の場合)を目安として施します。定植前に黒ポリをマルチす
ると乾燥や雑草の発生を防止するのに効果的です。

栽植密度はうね幅140センチ、株間70センチとします。定植
後は仮支柱を立て、苗を固定します。株が伸びてきたら、
両側(幅50-60センチ)に2メートル間隔で支柱を立て、70センチ
と1メートルの高さに1.5-2.0メートル目合いのネットを水平に張
り、枝を支えてやります。

追肥は生育を見ながら、定植1カ月後から2週間に1回施します(化学肥料10-20グラム/回)。
整枝はほぼ放任でよいですが、茎葉が繁茂してきたら密生した部分の枝を間引きしましょう。また、
梅雨明け以降はうねと通路に敷きわらをして地温を下げ生育を促進しましょう。

収穫は開花後20-25日、果重30グラム(大果系50グラム)で、週2回程度行います。

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)

平成20年5月8日(木) / 南日本新聞